

令和4年2月12日（土）

協働のまちづくり活動支援事業報告会を開催しました！

■ 開催の主旨

市民と行政による協働のまちづくりを推進するため、NPO・市民活動団体等と市民の皆さんとの交流と地域コミュニティの再生や住民主体のまちづくりを考える機会として、市が支援した協働のまちづくり活動支援事業の成果発表となる令和3年度報告会をオンライン配信で開催しました。

1 日時・場所

- ・令和4年2月12日（土） 午後2時00分～2時55分
- ・市民交流施設ぷらっと（江別市東野幌本町6番地43）

2 プログラム

●協働のまちづくり活動支援事業の事例報告

報告団体（報告順）

- ①江別演劇プロジェクトWinds
- ②えべつあそび場創造プロジェクト

●事業報告会コメンテーター



（写真左から）

- 尾形 良子 氏（北翔大学 生涯スポーツ学部 健康福祉学科 教授）
内海 信雄 氏（江別市自治会連絡協議会 会長）
工藤 多希子 氏（江別市女性団体協議会 会長）

●各団体の事業報告及びコメンテーターの質疑・コメント（概要）

① 江別演劇プロジェクトWinds

「演劇を生かした街づくりトークショー」



<事業報告内容>

演劇を活用したワークショップで学校・組織・地域のコミュニティ活動を活発にした具体的事例を紹介したトークショーの様子を報告した。

○開催概要

- ・令和3年12月16日(木)19時～20時30分大麻公民館研修室1号
- ・講師：斎藤歩、磯貝圭子、清水友陽、有田英宗
- ・司会：平田修司
- ・参加者30名
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、会場の事前消毒、参加者への検温・マスク着用依頼を実施した。

○トークショー内容

・事例報告① 学校での演劇によるコミュニケーション

学校でワークショップを行うことが増えてきている。中高一貫校での新1年生に対するルーキーズキャンプの中で実施した事例がある。生徒を融和させるため、合宿し、少人数のグループで短い劇を作ること、「正解のない課題」に取り組む。

学校の授業の中でも実施する例がある。良い劇を作るために先生は迷惑をかけそうな生徒を外したがる事があるが、目的が作劇ではなくコミュニケーションなので、様々な人が参加している状況を保持する事が重要である。正解を言わずに見守ると、時間はかかるけれど生徒は自主的に動き出す。

・事例報告② 演劇ワークショップの内容

住職の全国大会での事例、企業での事例、社会福祉協議会のそれぞれでの開催事例を紹介。

住職や管理職等の立場の人が、周囲の人間の話聞く事が出来る様になるため、演劇的な手法を導入した経緯と反響を紹介。

・事例報告③ 清田での取り組み

札幌市清田区において、2005年から開催している札幌座の演劇公演が発展し、ワークショップ開催に至る。集大成として、2017年の区制20周年記念事業において、清田区のエピソードを盛り込んだ劇を作って発表した。

・事例報告④ 教育現場と演劇ワークショップのあり方

前段と内容が重複するが、先生は迷惑をかけそうな生徒を外したがる事がある。しかし、ワークショップには、参加者の新たな役割を再発見する目的があるので、様々な人が参加する点が重要である事を理解してもらおう様にしている。また、コロナ禍で活動が激減したり演劇部が廃部になったりしている高校もあるが、その様な学校を支援したい。

・詳細についての紹介

トークショーのアーカイブ(YouTube)の紹介と、報告書の入手方法について案内。

○今後の展望、課題

今後の展開だが、江別でワークショップ等の事例を作っていきたいと考える。

<質疑応答>

【工藤氏】

プレゼンテーション時に事業の目的を聞いた際に、江別のまちづくりに貢献したい、また子ども達の教育の部分で貢献したいという話を伺い、発表事例を聞いた上での提案なのだが、教育の上で、演劇に関わるのは重要な事だと思っている。

近年、人との関わりのマナーが失われ、いじめ等が起きている部分があると思うので、道徳を取り入れた演劇を、市内で行って欲しいという希望がある。どう思うか。

【江別演劇プロジェクトWinds】

学校等の場でそういった活動を進めるためには、まずは相手が必要である。来年度は、その様な需要のある団体と話し合いを進め、団体や学校側がワークショップをやってみようという機運になれば一緒にやれると思うので、そういう相談をまずは開始したいと考えている。

【工藤氏】

子ども達を育成していく中で、その様な取り組みを始めていってはどうかと思う。近年、人々のマナー意識が欠けていると非常に感じる為、人との関わり方を伝えていくことが重要と考える。

【江別演劇プロジェクトWinds】

近年のニュース等を見ても、そういった時流はとても感じられる。他者との関わりには、想像力が大事だと思う。市内でも、子ども劇場を始めとした、子どもと劇を作る活動をしている団体があるが、そこに参加している一部の人間だけではなく、学校を通じた取り組みを検討している。

【内海氏】

子ども達や学校を対象にした取り組みという印象が強かったが、今説明を聞いた所、演劇を通じて多様な活動、職場等も含めた活動が出来ると伺った。

幅が広いが、焦点が絞りきれない印象もあるため、対象を絞り、教育委員会へ集中して啓発及び周知活動をすれば、より充実した活動になると思うし、そこから自治会や職場への広がりが見込めるのではと思う。良い活動なので、是非、市内へ広めて欲しい。

【江別演劇プロジェクトWinds】

教育委員会をはじめ、最初のきっかけを作る事をしなければいけないので、その点を注力したいと思っている。

【内海氏】

今年度も集客が30名程という事で、キャパシティもあるが、もっと沢山の、様々な職種の人に聞いていただければ良いと考える。

【江別演劇プロジェクトWinds】

工夫を検討する。

【尾形氏】

自分はイベントには参加出来なかったが、プレゼンテーション時は、かなり限定した人を対象にしたイベントだと思っていた。そのため、江別市民全体のまちづくりの意義と考えた時に疑問を感じていたのだが、トークショーでは、他の地域のまちづくりに繋がる事例の紹介があり、ワークショップ経験も豊富な方の話で、江別のまちづくりに繋がるクオリティの高いものだったと聞いた。

今後の広がりが期待できる、将来へ向けての種を有しているイベントを実施していただき、感謝している。

【江別演劇プロジェクトWinds】

ありがとうございます。

② えべつあそび場創造プロジェクト

「あそびの輪を広げよう」



<事業報告内容>

えべつあそび場創造プロジェクト(略して「あそプロ」)の令和3年度の活動の報告を行う。

○えべつあそび場創造プロジェクトとは？

- ・地域に住む子どもたちにあそび場を提供

あそプロに登録している各あそび場施設にて、毎月1回日曜日に地域の子どもたちを対象としたあそびの会を開催している。

- ・あそびの会とは？

あそプロ所有のおもちゃで子どもたちに自由に遊んでもらう会。参加した子どもたちは普段と異なるあそびができることを喜んでおり、有意義な事業であると実感している。

○新型コロナウイルスの影響について

- ・あそびの会の開催自粛

介護付有料老人ホーム蓮音および静苑ホームでのあそびの会は、感染リスク回避の為今年度も開催できず、再開の目処がたっていない。その他のあそび場では緊急事態宣言およびまん延防止等重点措置の適用期間はあそびの会を中止し、感染拡大抑止に努めている。

- ・あそびの会開催時の取り組み

あそびの会では、マスク着用、手指消毒、来場時の検温だけでなく、参加者名簿に連絡先を追加、おもちゃは間隔をあけて配置する、施設毎に飲食ルール設定(仕切り設置、対面禁止、間隔をとる)の取り組みを行った。

○あそびの会の参加人数実績(2022/02/12 現在)

- ・今年度から開始した、コルクえべつだが、延べ参加人数が、子ども 182 名、大人 190 名の合計 372 名、136 家庭であった。

特に目をひくのが 10 月 3 日、キッチンカーフェスティバルとの同時開催日で、多くの参加者があった。予想以上の参加者で、急遽、廊下等に会場を広げたが、長時間ではないが、若干密集気味になってしまった。集客力のあるイベントとの共催時の対策が、今後の課題である。

- ・まごころハウスでのあそびの会は、まん延防止等重点措置期間は実施出来ず、延べ参加人数が子ども 21 名、大人 34 名の合計 55 名、36 家庭であった。

また、今年 1 月以降は、施設の都合で継続が困難になった為、12 月をもって、あそびの会 in まごころハウスは終了とした。

- ・江別地区のあそびの会が無くなってしまうため、朝日町の区画整理記念会館をあそび場として「あそびの会 with ここからえべつ」を 12 月から開催した。「えべつここからつながる ささえあいアクション」との協働になるため、このネーミングにした。

1 月は中止しているが、12 月は子ども 7 名、大人 18 名、合計 25 名、21 家庭の参加があった。今後周知が上げれば、より多くの参加が見込めると考える。

○参加者の声

- ・充実したおもちゃ

「想像していたよりずっとたくさんのおもちゃがあって驚いた。」「おもちゃがすごくきれいなのがうれしい。」「大人用のパズルやボードゲームが良い脳トレになる。」等、来場者誰もが楽しめるおもちゃを用意したことが評価された。

一時期破損の酷かったミニ四駆は、未就学児は保護者と一緒に遊ぶ様にして貰った為、破損の頻度が減少した。

- ・コーヒーの提供

「カフェオレがふわふわ、想像していたのとぜんぜんちがう。」「このコーヒーは安くてもおいしいからぜひ飲んでいきなさい。」等、来場者に宣伝してくれるリピーターさんが出てきた。

○新たな取り組みは達成できた？

あそび場の増加については前段で報告したので、ここでは物や人の輪を広げることが出来たかを取り上げる。

・モノの共有

ココルクえべつでは、おもちゃやコーヒー用の機材を、他2団体の子育て支援の団体と共有した。これにより、おもちゃ購入費用の軽減や機材運搬の負担が軽減された上、収納スペースを有効に使えるようになった。また、ここからえべつのあそび場である区画整理記念会館には、子育て支援センターすくすくの備品があり、利用させて貰っている。

・学生の支援

ココルクえべつにジモ×ガクの大学生がボランティアで来てくれるようになったため、メンバーの負担が大きく軽減された。ボランティアの大学生はリピート参加している人もいて、子どもたちと遊ぶことを楽しんでくれていると感じている。

・他団体との連携

ここからえべつとは、平成31年度の協働のまちづくり活動支援事業で一緒になったうるうる亭のメンバーから、江別演劇プロジェクトWindsの「演劇を生かした街づくりトークショー」で再会した際に紹介された。これまで築いてきた他団体とのつながりが活きていることを実感している。

あそびの会 with ここからえべつでは、人的支援も得られており、メンバーの負担軽減につながるだけでなく、将来的にはあそびの会の運営を任せるとも想定している。

○あそびの会の様子

写真による活動状況の具体的事例の紹介。

○収支決算

当初は156,000円の予算だったが、支出増に伴い自己負担金を増やし、178,297円になった。支出については、その他のものは概ね予定通りだが、開催会場増のため若干増加したコーヒー代、予定より大幅に増加したのは広告費。ココルクえべつのパン屋等にイベント開催時においてもらう為の、のぼり旗を作成した。

<質疑応答>

【工藤氏】

中間報告も見させてもらったが、活発な活動をされているという事と、コロナ禍の中でどうしたら活動出来るかという努力が伝わってきた。

新型コロナウイルス感染症の流行により、高齢者施設での活動が出来なかったという事だが、今後感染症が治まり、規制が緩和されて活動が広まった場合、人員が足りないのではないかと思う。他団体との連携について、今後どの様な考えがあるのか教えて欲しい。

【えべつあそび場創造プロジェクト】

全部、うちのメンバーでやろうとすると、負担が大きくなっていく。今後、一緒に開催していく仲間を作っていく、ゆくゆくはその団体に運営を任せる、というスタイルにしたい。今後は、事業を広める立場になりたいと考えている。

【工藤】

広い視点で考えられていることが分かった。継続して、より良いものにして欲しい。

【内海】

当初予定しているよりも、相当数の集客が認められている様だが、ココルクえべつのイベント時に相当集まった様なので、対応の工夫は検討されているとの事、しっかり感染症対策を行い、活動を広めて欲しい。素晴らしい活動なので、もう少し人の輪を広げて、子ども達に楽しんで貰いたい。

開催頻度が月に一度というのが課題になると思う。せっかくの良い催しなので、出来れば月に2回、3回と増やして貰えればと感じた。

また、今後の展開で、他の団体に運営を譲っていくという話があったが、子どもは知っている人の所へ行ける事が、安心感と定着度が高まるのではないかと思うので、是非子ども達が安心して遊べる様なシステムとスタッフを検討して欲しい。

【えべつあそび場創造プロジェクト】

実施頻度については、増やしたいという思いがある。運営を譲渡する団体・企業に任せられる様にするのが最終的な目標なので、譲渡した先で固定スタッフが運営出来る様に提案して、達成していきたいと考える。

【尾形氏】

初めに計画を聞いた際、代表が一人でやるという点を懸念していたが、活動終了後に報告を受けると、素晴らしい活動が出来ているので驚いた。大変な苦勞があったと思う。

とても上手に他団体や人を巻き込んで地域活動をされているが、実はそれは簡単な事ではない。そのコツや、周りに一緒にやって欲しいという提案に関するアイデア、工夫等について教えて欲しい。

【えべつあそび場創造プロジェクト】

正直、そこまで意識はしていなかった。他団体の活動事例の話を書く機会に、私達と一緒にやったら面白いのではないかという声かけをしている。売り込みよりは、まずは面白さを一緒に感じて貰う声掛けをしているのが、良い方向へいったのではないかと思う。

【尾形】

そのキーフレーズはとても良いと思う。自分達も是非使ってみたい。

●コメンテーター総評**【工藤氏】**

江別演劇プロジェクト・えべつあそび場創造プロジェクトの話を知り、皆さん本当に努力されているなど感じた。自分自身の団体活動と比較しながら話を聞いていた。今後も江別の発展の為に尽力していただきたいと思う。本日は有難うございました。

【内海氏】

こうして、街の為に活動して頂いている住民団体の話を聞いて幸せに思う。是非、補助金を沢山確保して、今後も活動を進めて頂ければと思う。本日は、本当にご苦勞様でございました。

【尾形氏】

本日は2団体の活動を聞かせて貰ったが、私達の知らない所で、一生懸命得意な活動を行い、江別市を豊かにしてくれているという事が心に残った。

私達北翔大学でも地域活動を行ってきたが、それがどれだけ江別市民を幸せにしているかという効果測定はやっていない為、その効果を語ることは出来ないが、参加者が持って帰る満足感・安心感は相当なもので、それが江別市の為になっていると考える。

様々な団体が頑張っている事は、お金には変えられない価値があり、市民の誇りになるのではないかと思う。有難うございました。